

## 自己評価報告書

平成23年 5月26日現在

機関番号：11601

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20530097

研究課題名 (和文)「極右政党」の政権参加と福祉制度改革の比較政治

研究課題名 (英文) Comparative Politics on “New-Right-Party” and Welfare State Reform

## 研究代表者

大黒 太郎 (TARO DAIKOKU)

福島大学・行政政策学類・准教授

研究者番号：20332546

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・政治学

キーワード：政治学、極右政党、福祉制度改革、オーストリア政治、比較政治学

## 1. 研究計画の概要

本研究の目的は、「極右」政党を組み込んで90年代後半以降に登場した、オーストリア、イタリア、オランダの右派連合政権によって実現した年金・医療保険制度改革において、「極右」政党が果たした独自のインパクトを確定するとともに、同時期にドイツ・イギリスなど左翼政党主導で実現した同種改革との対比のなかで、その改革の性格を昇にすることである。

## 2. 研究の進捗状況

(1)右派連合政権の年金・医療制度改革の実現プロセスのなかで右派政党が果たした役割を確定するという目的については、政権参加を果たした「極右」政党内部の組織的・制度的変化と連合政権内の交渉プロセスに焦点を定めて分析済みである。①「極右」政党の政権参加によって、右派国民政党の脆弱性が克服され、より安定的な政権運営が可能になったことを通じて改革のための政治的基盤が強固となったこと、②「強い国家と市場」という組み合わせという形で政策的方向性を決定づけたことが、「極右」政党参加の政策的インパクトとして確認できること、③この特徴は、オーストリアの身ならず、研究対象としたイタリアやオランダにも(国別の特徴は無視できないが)概ね確認できる。

(2)福祉制度改革に関わって連合政権を取り囲むアクターでありうる労働組合や保健基金の反応については、文献調査、インタビュー調査を含め実施済みである。

(3)政策的方向性の明確化とともに、それとは矛盾するように思える政治変化の潮流が生

み出されつつあることが(当初の予想を超えて)確認できた。すなわち、「極右」政党弱体化の潮流である。野党時代と政権与党時代の「極右」政党は、リーダー選択、党内運営、対他組織関係のあらゆる面で異なっており、福祉制度改革の方向性の明確化とともに、その政治的基盤が掘り崩されるという現実があきらかになった。

## 3. 現在までの達成度

③やや遅れている。教育等他業務での多忙化が進んでおり、海外出張による資料収集とインタビュー調査の実施が思うように進まず、科研費の翌年繰越が常態化しつつある。また、それに合わせて研究内容の論文化が遅れている。

## 4. 今後の研究の推進方策

他業務の整理を行いつつ、2週間以上の長期間の海外調査期間を確保することで、現場での調査を進めるとともに論文化作業を推進する。

## 5. 代表的な研究成果

[学会発表] (計1件)

大黒太郎、「比例代表制下で2ブロック競合関係はいかに可能か—オーストリアの事例」、日本比較政治学会、2008年6月21日、慶應義塾大学日吉キャンパス